**松之山温泉の"名湯"**

松之山温泉は十日町の山あいにひっそりと佇む歴史のある温泉である。松之山温泉は「日本三大薬湯」のひとつに数えられ、14世紀からその湯の効能が知られていたと伝えられている。

この湯の何が特別なのか？日本の法律では、19種類の治療的なミネラルのうち、1種類でも十分な濃度があれば温泉として認められる。松之山温泉の泉質は、8種類の基準値をクリアしており、そのうちのホウ酸の含有量と抗菌作用は日本一である。また、リチウム、ストロンチウム、臭素、ヨウ素、フッ素、メタホウ酸、メタケイ酸といったミネラルも含まれている。これらはすべて、特に皮膚の病気に効果があると報告されている。

これらのミネラルの濃度が高いことが、その効能にもつながっている。松之山温泉の泉質は、人間の細胞内よりも高濃度のミネラルが含まれているため（高張性という状態）、浸透圧の自然なプロセスによって、体内にミネラルが吸収されやすくなるのである。

そして、松之山温泉の泉質は非常に熱く、入浴用に冷水と混合される前の最高温度は摂氏98度である。また、約1200万年前に2つの海底プレートの間に閉じ込められた塩水の貯水層からの供給であるため、塩分濃度が高い。松之山温泉の入浴客にとって、お湯の熱さと浮力は特にリラックスさせてくれ、それがこの温泉の癒しの評判に大きく影響していることは間違いない。